

平成30年度第2学年東京都児童・生徒の学力向上を図るためにの調査結果と分析

	A教科の内容		B読み解く力に関する内容		AとBの合計	
教科	貫井中	東京都	貫井中	東京都	貫井中	東京都
国語	72.9%	73.8%	69.0%	69.6%	72.3%	73.1%
社会	67.1%	63.3%	46.7%	52.1%	62.7%	60.9%
数学	53.1%	56.8%	36.2%	43.9%	48.9%	53.6%
理科	53.8%	54.3%	49.0%	50.1%	52.7%	53.3%
英語	59.7%	58.9%	48.2%	45.5%	57.1%	55.8%

教科	学力調査の分析（身に付いている力・課題等）	具体的な授業改善策・取組
国語	今回の調査結果では、関心・意欲・態度、書く技能、読む力については都平均を上回ったが、思考・判断・表現と知識・技能については平均を下回った。問題のほとんどが四択だったが、間違いを判断する力がまだ不足していることが原因と考えられる。また、知識・技能については、語彙力の不足が原因と考えられる。	四択の選択の仕方については、ワークなどの問題で常に解説しているが、まだ理解していない生徒が見られるので、引き続き徹底していきたい。また、語彙力については、1年生から漢字・語句の小テストを継続して行っており、取り組む姿勢は向上してきてはいるが、復習にさらに力を入れていく。
社会	関心・意欲・態度、思考・判断・表現、技能、知識・理解といった「A教科の内容」に関する項目に対して都の平均をすべて上回っている。一方で「B読み解く力に関する内容」に関する項目では、すべて都の平均を下回っている。図やグラフなどの資料に対して読み取る力が不足していると考える。	授業では、資料の読み取りに対して行わせているが、未だに不慣れな生徒が多い。今後も授業課題として、資料の読み取りをより多くこなし、資料の読み取り方に慣れさせる。特に、地理分野での地図の読み取りに関しては日本地図の分野を活かして取り組ませていく。
数学	今回の調査においては、関心・意欲・態度については都平均を上回っているが、思考・判断・表現・技能・知識・理解については平均を下回っている。特に読み解く力に関する内容については大きく下回っているので、題意を取り出し解決する力の育成が急務と思われる。基礎基本の定着も不十分であると考えられる。	基礎基本の定着に関しては、反復練習や家庭学習の充実などによって、指導を継続させていく。また、グループワークや教え合い学習などを通して、自分たちの力で解決していく力を育成していく。少人数習熟度別クラスの特性を生かしながら、的確な課題の設定を心がけていく。
理科	思考・判断・表現や技能の観点においては、都平均を上回っていたが、知識・理解に関する正答率は下回った。一問一答的な学習よりも、活用や表現を意識した授業を重視してきたため、いくつかの情報から正解を導くような解決力は身についてきた。生徒質問紙より、観察・実験など多様な教材の導入や他者との協働的な学び合いが、生徒の意欲向上につながっていることが分かる。	知識・理解に関する内容は、授業の振り返りを元に、小テストなどを導入し、繰り返しの学習を継続的に行っていく。技能は、実験・観察器具を実際に扱わせ、安全に配慮した実習を今後とも実践する。他者の意見を聞いたり、自身の考えを伝えたり、また、教え合う学習により、生徒が自らの考えを省察、整理、強化されることが期待できる。
英語	今回の調査においては、関心・意欲・態度及び技能（外国語表現）については都平均を下回っているが、全体としては平均を上回る結果となった。ワークや表現活動重視してきたため情報を読み取り、理解する力は身についてきた。関心・意欲・態度に関しては2学年になり、学習内容の難易度が格段に前年度から上がったことが要因だと考えられる。	外国語表現については、パターンプラクティスで基礎・基本の定着を再度図り、その上で自己表現や英作文の課題を今まで以上に充実させる。また、本年度から扱っている難易度の高い学習事項については、復習を行い学年全体の関心・意欲・態度の向上を図っていく。